

南アフリカ為替週報

2022年6月30日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(6月23日～6月29日)

USD/ZAR: 15.7600～16.3000
ZAR/JPY: 8.38～8.58 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、堅調気味の横ばいから、反落。最終的には、対ドルで、直近安値(6月13日の16.1875)を割り込んで、6週間ぶりの安値を更新した。ランド堅調先行の背景には、南ア準備銀大幅利上げ観測の高まりを挙げることができただろう。22日に発表された南ア5月CPIの上振れ(注1)を受け、金利先渡(FRA)市場の3×6ヵ月物は、23日までに一気に45b.p.前後跳ね上がり、翌日以降もじわじわと上昇を続けた。28日には6.30%を突破、22日に4.95%だった3ヵ月物JIBAが、3ヵ月後には135b.p.上昇する可能性を織り込んだ。3ヵ月後までには、7月22日、9月22日と2回の金融政策委員会が予定されるが、単純に、2回の同委員会の少なくともどちらかで75b.p.の利上げ(注2)を織り込んだ格好。その割にランドの上げ足が鈍かったと見るなら、その要因には南ア電力公社(Eskom)の無許可ストと計画停電を挙げることができただろう。同社の労使賃金交渉が決裂したのは、21日のことだったが、遅くとも23日には一部の労働者がストに突入。出社する同僚を脅迫したり、職場(発電所)への道路をブロックしたりと、過激化した模様。(発電施設の)定期補修、予期せぬ故障に加え、労働者不足で電力供給能力が一気に低下し、28日には6,000MW規模の計画停電が実施された。6,000MWは2019年12月に一度あっただけで、史上最悪(最大)の規模だった(29日夜の実施も予告された)。更に29日、南ア準備銀クガニヤホ総裁は、「(7月22日の金融政策委員会における)50b.p.利上げの可能性を除外しない」と述べた。+75b.p.の可能性を半分以上織り込んだ市場にしてみれば、「それだけ？」と失望させられる発言で、ランドは続落した。

＜向こう4週間の見通し＞

(6月30日～7月27日)

USD/ZAR: 15.500～16.400
ZAR/JPY: 8.25～8.85

向こう4週間の南ア・ランド相場は、現行水準における横ばいから、ランド反落を予想。直近安値を割り込み、昨年11月の安値16.3675(対ドル)を視界に入れたランドだが、仮に、一時的に同水準を割り込むことがあったとしても、2020年11月に上抜けして以来、14.0～16.0をコアレンジとして推移してきた横ばいが、「次のステージに移った」と読むのは早計のように思われる。何より、ランドにそこまで弱気になる要因を思いつかない。確かに、頻発する計画停電は南ア経済の大きな重石だが、Eskom労使は、28日に、賃金交渉で合意に至り、今後、労働者の復帰が進むことが見込まれる。フレーザー元南ア国家安全保障局長によるラマポーザ大統領の「汚職」摘発(6月1日)には一瞬肝を冷やしたが、その後、グプタ兄弟の逮捕(6月6日)があり、今般、ゾンド検事総長報告書の第5弾(最終章)が提出された(6月23日)。今後、フレーザー検事総長を含む、ズマ前大統領一派の汚職(国家乗っ取り疑惑)追求が進むはずで、同検事総長の摘発そのものの信ぴょう性を低めることになるのではないかと。12月の与党アフリカ民族会議(ANC)党大会では、ラマポーザ党首(大統領)続投が、引き続きメインシナリオだ。一方で、交易条件改善を追い風とした、南ア貿易/経常収支の改善は、想定外の長期化定着を見せていることも、過度にランドに弱気になる状況にはないように思われる。勿論、主要国の大幅利上げや、景気後退懸念を背景とした資源価格のこれ以上の低下はランドに悪材料だが(だからこそその足元ランド軟調)、市場の織り込みは既に相応に進んでいるはずだ。

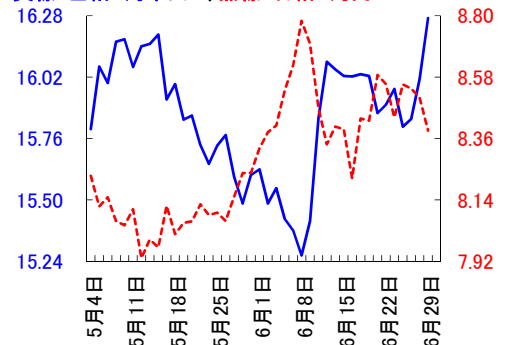
＜向こう4週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
6/30	6:00	民間部門信用(前年比)	5月		+5.58%	+5.87%
	12:00	貿易収支(ZAR)	5月		+26.3bn	+15.5bn
	12:00	財政収支(ZAR)	5月		-19.0bn	-45.2bn
7/1		自動車販売統計(前年比)	6月			+2.1%
7/7	6:00	総外貨準備高(USD)	6月			59.26bn
7/12	11:00	製造業生産(前年比)	5月			-7.8%
7/13	11:00	小売売上高(前年比)	5月			+3.4%
7/14	9:30	鉱業生産(前年比)	5月			-14.9%
7/20	8:00	CPI(前年比)	6月			+6.5%
7/21		南ア準備銀レボ金利				4.75%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

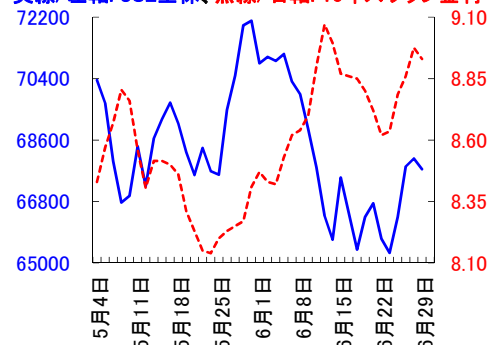
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.75%
長期金利(10年スワップ)	6月29日	8.930%
株価指数(JSE全株)	6月29日	67747.41
成長率(GDP/前年比)	Q1	+3.0%
経常収支(ZAR)	Q1	+143bn
失業率	Q1	34.5%
消費者物価(前年比)	5月	+6.5%
小売売上高(前年比)	4月	+3.4%
製造業生産(前年比)	4月	-7.8%
鉱業生産(前年比)	4月	-14.9%
貿易収支(ZAR)	4月	+15.5bn
金価格(ロンドン17:00)	6月29日	1818.58

＜お知らせ＞

筆者休暇のため次回の「南アフリカ為替週報」は7月28日を予定しております。ご迷惑をお掛けし大変申し訳ありませんが、よろしくご諒承ください。

(注1) 4月前年比+5.9%、市場予想同+6.1%のところ、発表は同+6.5%

(注2) もう一方は+50～75b.p.ということになる

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。